

幼児期の文字習得プログラム（１）

—幼稚園・保育所における文字環境に関する経年比較—

三神 廣子

（名古屋芸術大学短期大学部）

研究目的

平成12年4月に施行した幼稚園教育要領は、領域「環境」と領域「言葉」で文字についてふれている。言葉の獲得に関する領域領域「言葉」では「日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう」としている。これは幼稚園での文字指導の解禁である。平成2年4月に施行された要領では環境に「日常生活の中で数量や図形に関心をもつ」として文字とはいわず図形としている。その留意事項として「文字に関する系統的な指導は小学校からおこなわれるものなので、幼稚園においては直切とりあげて指導することなく個々の幼児の文字に対する興味や関心、感覚が無理なく養われるようにすること」としておりこの点が大きく改定されている。保育前場では以前より字を教えることがひとつのセールスポイントとされて子どもの発達を無視して行われていたところが、多くみられた。ここにきて文字を指導することが認められたことにより、これからどのように加熱していくか、少子化なども影響してより高度な先取り保育にながれる危険を含んでいる。子どもの発達にかなった幼児期の文字習得のプログラム作成が急がれる。

本研究では、幼稚園・保育所における文字環境の経年比較して現状を捉えることを目的とする。

方法

1) 被験園：沖縄・九州・四国・中部における実習生がお世話になった園。

2) 調査方法：1、文字に関する質問項目についてチェックリスト法で行う。調査者は学生で、実習をおこなった園の担当したクラスについてのみ調査する。なお、園名は無記名で、県名のみ記入する。

2、「文字についての子どものとの応答について、自由記述」で行う。

3) 調査期日：1996・2000/11月

（1973/1989は発表済み）

結果

1、表に示すとおりである。

3歳児について

- * 絵本を自由に見せるは幼保70%以上である。
- * 子どもが要求すれば教えるが幼保60%前後。

（1996の幼稚園25%の理由は不明）

- * ワークブックの使用は30%から25%で幼稚園が多いが、多いが年々減っている。

- * 名前が書えて書けるは10%程度である。

- * 名前が読めるは45%前後から30%弱に減る。

4歳児

- * 名前の書き方を一斉に教えるは幼保10%前後。

- * 名前が書ける子どもに書かせるは幼保40%以下

- * ワークブックの使用は40%以上から30%弱で幼稚園が多いが2000年に半減している。

- * 子どもが要求したときに導くは70%以上。

5歳児

- * ひらがなを教えるは30%から45%以上へと年々ふえる。

- * 文字のついている本でその文字をたどるは幼稚園45%前後であるが、保育所は年を経るにつれて、27%・38%・43%と年々増加している。

- * 音節の弁別は10%前後から2000年は20%で幼稚園が多い。

- * 図形の異同弁別は年をへるにつれて15%20%と8%あり、いずれも幼稚園が同じか若干多い。

- * 一斉にワークブックで教えるは幼稚園が年をへるにれても45%前後である。保育所は年をへるにつれて15%・32%・39%と年々増加している。

- * 自由遊びに文字のあるもののおいてあるは幼稚園が50%前後であるに対して、保育所は年をへるにつれ39%・58%・60%と年々増加している。

- * 子どもが聞いた時に教えるは保育所が1989から2000年いずれも90%を超えている。

- * 英語を教える幼稚園が年々増加している。

以上、年を経るにつれて幼保の差が無くなっている。

表 幼稚園・保育所の文字環境の経年比較

年齢	文字に関する質問項目	1973	1989			1996			2000		
		幼稚園 幼(100園)	幼稚園	保育所	合計	幼稚園	保育所	合計	幼稚園	保育所	合計
3歳	・自分の名前が言えて、書ける		95園14%	84園14%	179園14%	126園13%	189園14%	273園13%	100園10%	129園10%	246園10%
	・名前が読める		36%	38%	37%	44%	33%	37%	36%	31%	33%
	・文字が目につく環境を作る		45%	41%	42%	47%	36%	40%	29%	27%	28%
	・ワーク・ブックを使用する		*30	9%	19%	*25%	10%	16%	12%	7%	9%
	・絵本を自由に見せる	95	95%	77%	82%	86%	93%	90%	69%	80%	75%
	・子どもが要求すれば教える	95	64%	70%	68%	25%	*76%	65%	70%	59%	65%
4歳	・名前の書き方をいっせいに教える	22	*13%	7%	9%	142園11%	204園9%	346園7%	129園12%	99園12%	228園12%
	・3学期に文字の切り紙を用いる	22	*15%	5%	8%	8%	3%	5%	7%	6%	7%
	・絵文字を用いる	22	*22%	11%	15%	13%	13%	13%	14%	15%	15%
	・名前が書ける子どもに書かせる		40%	41%	40%	44%	37%	40%	30%	36%	33%
	・ワーク・ブックで教える		*42%	14%	23%	*49%	14%	29%	*29%	6%	20%
	・歌で教える		31%	31%	31%	25%	28%	27%	29%	30%	30%
	・子どもが要求してきたときに導く	78	82%	81%	82%	68%	77%	73%	70%	75%	73%
・絵本を自由に見せる	78	96%	96%	96%	92%	93%	92%	98%	95%	97%	
5歳	・指で教える		30%	23%	26%	180園32%	141園32%	321園32%	156園25%	90園26%	246園25%
	・音節の弁別		11%	10%	10%	9%	7%	8%	20%	10%	15%
	・図形の異同弁別		15%	15%	15%	21%	14%	18%	8%	7%	8%
	・手首の運動		34%	27%	29%	20%	19%	20%	12%	17%	14%
	・郵便ごっこ		17%	21%	19%	18%	16%	17%	4%	3%	4%
	・五十音の絵文字	48	34%	27%	29%	26%	33%	29%	19%	13%	17%
	・ひらがなを教える	48	35%	29%	31%	44%	35%	40%	48%	42%	45%
	・自分の名前を書く	48	66%	67%	66%	78%	77%	78%	80%	80%	80%
	・文字のついでに本でその文字をたどる	48	*45%	27%	34%	43%	38%	40%	46%	43%	45%
	・一斉にワーク・ブックで教える	48	*46%	15%	27%	*44%	32%	39%	44%	39%	42%
	・習字(毛筆)		9%	4%	6%	44%	32%	39%	10%	0%	5%
	・歌で教える		34%	32%	32%	27%	32%	29%	23%	27%	25%
	・自由遊びに文字のあるものがおいてある	48	55%	39%	45%	48%	58%	53%	50%	60%	55%
	・絵本を自由に見る	52	95%	95%	95%	91%	92%	91%	96%	95%	95%
	・子どもが聞いた時に教える	52	86%	97%	92%	76%	93%	83%	80%	97%	88%
	・月日等の文字を黒板に書き自由に読ませる	52	62%	62%	62%	53%	50%	51%	50%	50%	50%
	・文字遊びをする	52	35%	40%	38%	37%	42%	39%	40%	47%	44%
	・歌を覚えるとき黒板に書く(読み書きは自由)	52	57%	49%	51%	55%	50%	53%	57%	55%	56%
	・かるた遊びをする		28%	24%	25%	22%	32%	26%	27%	35%	31%
	・3学期から名前が読めて書ける		31%	24%	26%	34%	30%	32%	35%	34%	34%
	・キンダーブックを見る		58%	45%	50%	*51%	23%	38%	50%	45%	47%
	・カタカナを教える		11%	1%	5%	11%	9%	10%	10%	10%	10%
	・漢字を教える		8%	2%	4%	2%	3%	2%	8%	10%	9%
	・英語を教える		5%	4%	4%	*15%	1%	9%	*20%	3%	11%

(1973・1989は発表済み)

2. について

- * 「コノジ ナントヨムノ」「これは、わ、これは、ね」「イッショナノニ ドウシテチガウノ」(子どもは、わ、とね、の区別がつかない) * 「この字はどうよむの」「アキ」[違うでしょ、鉄です。秋はかねへんがありません] * 「今日はみんなで、いの字を覚えましょう」「ハイ」など。

考察

教育要領は「文字などで伝える楽しさを味わう」としているが、現場では、文字自体を教え込むか、文字は教えませんといわば放置して5歳の後半に指導らしきことをするという、子どもの発達に合った、その要因をしっかりとらえて、保育をしているところはあまり多くはない。天野清は文字の読みの学習を可能にする重要な内的準備条件として「語の音韻構造の分析能力」に注目して研究成果を出している。今井靖親は幼児が仮名の読みを学習する場合、その仮名と組み合わせられる語の熟知度が一つの鍵を握っていることを明らかにした。

著者は読書レディネス(準備)・テストの作成(人の話を正しく聞いて正しく反応する・事物を抽象する・お話を記憶する・形を弁別刷る・絵と文字を結合する・お話を構成する、因果関係を見出すの6要因)に加わり、このテストを使用して研究した。結果、早くから文字指導を一斉に興味も準備もないまま行くと、3、4歳ではある程度のびるが、5歳では逆に受けない群が高くなるという結果をだした。今後の課題として次のことを考えている。

読書レディネス(準備)を育てる3歳未満児から5歳までの年齢別プログラムのアウトラインを作成した。(名古屋自由学院短期大学紀要、2000年度)このプログラムに沿って、実践を重ねていく予定である。

参考文献:

- 天野清 子どものかな文字の習得過程 秋山書店
今井靖親: 仮名の読字学習に関する教育心理学的研究 風間書房
大西誠一郎: 読書レディネス・テスト 金子書房